



第449号

2024年11月

〒461-0004
 名古屋市東区葵2丁目6-35
 カトリック名古屋教区広報部
 電話 (052) 935-2223
 FAX (052) 935-2254
 news@nagoya.catholic.jp
 印刷所 株式会社 荒川印刷
 毎月第1日曜日発行

教区設立100年後の課題

AGIFTを告げに出ていこう！
 次世代に信仰をいかにつなぐか？
 「隔ての壁」を壊し「新しい人」になろう

教区ホームページ

福音のひびき

11月の説教者

- 3日 年間第31主日
コンディ・ニコラウス (神言修道会)
- 10日 年間第32主日
根田 健二 (岐阜教会)
- 17日 年間第33主日
デ・グスマン・ドンドン・ファヴィラ (南山教会)
- 24日 王であるキリスト
平田 政信 (押切教会)

教区合葬墓地納骨式と合同追悼ミサ



合同追悼ミサ



灌水の様子

9月23日(月・休日)の午後1時より、気温が35度以上になり、雲一つない炎天下、名古屋の八事霊園の教区合葬墓地において、納骨式、その後、午後2時より合同追悼ミサが行なわれた。

今年、5柱の遺骨が、遺族立ち会いのもと、太田美神父の主式によって教区合葬墓地に埋葬された。納骨式は15分程度で終わり、その後の追悼ミサまで、30〜40分の待ち時間となった。

ミサ開始の30分程前から、参列する家族・親族が次々と集まって、最終的には86名ほどが参列した。午後2時に、松浦信郎司教の主式で追悼ミサが捧げられ、ミサの説教の中で司教は、「私たち、大切な人、愛する人、先立たれた者たちにとって、もう亡くなった方々に触れることも姿を見ることができず、言葉を交わすこともできない

ので、大変悲しく、寂しい思いを持つのは人として当然である。しかし、私たちの信仰によって、先に亡くなった方々の霊魂は、キリストの復活に与って天国にあること、私たちがもみぢくこの世での人生を全うして、同じ信仰によってキリストの復活の命に与って、彼らと再会できるという喜びの希望を持っている。それは、残された私たちが

とつての大きな力である」と述べ、会衆に向かって、今日は先に亡くなった方々のことを忍びつつ、このミサを共に捧げようと呼びかけられた。

聖体拝領の後、参列者によってロザリオの祈りが捧げられる中、早川和彦助祭と光山相泰助祭によって、各墓石に灌水が行なわれた。

(南山教会 秋元伸介)

名古屋教区

東八事第一墓地での合同追悼ミサ

10月13日午後2時より、秋晴れと呼ぶには、まだまだ猛烈な暑さの中、名古屋教区東八事第一墓地で合同追悼ミサが捧げられた。司式は伊藤大有神父(教区司祭・東山教会主任)、早川助祭と光山助祭がついた。およそ70名が集まり日傘や帽子を使って強い日差しから身を守りながら墓地に参られている方々を偲んだ。説教ではラザロの蘇りでのマルタとマリアの信仰に触れつつ私たち

の信仰の在り様に置き換え、伊藤神父自身の学生時代の思い出を、紹介しながら、「私たちはイエスを信じていると言うが、イエス様から見て本物の信仰と映っているのだろうか? 私には自信がない。いつも罪の意識にさいなまれながら生きています。今日、墓地に眠る



先輩方がわたしたちを見守り叱咤激励する、そんな集いではないだろうか? だが、それらの葛藤や弱さをすべてイエス様はご覧になっているのだから、自分たちの弱さを素直に神に向けることが大切である」と説いた。猛烈な暑さの中ではあったが体調を崩す方もなく、ミサはつつがなく進み拝領祈願が唱えられた後、二人の助祭が灌水を行った。墓地に置かれたすべての墓石を巡り一つ一つ丁寧に聖水が降り注がれた。参列した遺族の心にも恵みの雨が注がれたのではないだろうか。両助祭が灌水を行う間、ロザリオの祈りがささげられた。心のもつたとても良い集まりだった。

なお、11月3日(日)午後2時より、名古屋教区東八事第一墓地において、合同追悼ミサが行われる予定である。

(南山教会 新内飛鳥)

教区典礼研修会

「いまさら聞けないミサのあれこれ」

10月14日午後1時30分から3時30分まで名古屋教区典礼研修会を開催した。会場は南山教会マリヤ館ホールとし、講師にヤコブ・ライチャーニ神父(神言会)を招き「いまさら聞けないミサのあれこれ」と題してミサのあれこれ」と題して幅広くミサに関する話を聴くことが出来た。普段、小教区の主日ミサで疑問には思っている「いまさら、聞きづらいなあ」というようなことがある

のではないかと着目し、それらの疑問を解消できる機会になればと準備した。栄國寺で殉教者祭が開催されたが、その帰路に駆けつけた方々も含め70名を超える参加があった。典礼委員会が手掛けた研修会としては、56回を数えた。さてミサ全般を扱った今回の研修会であるが、私たちが日常奉げているミサが実は目の前で進められている儀式だけではなく天上の典礼の先取りであることや全宇宙

とつながっていることが説き明かされた。そこには神の子イエスによる救いの歴史が凝縮されている。神に向けてのキリストの祈りに私たちが加わっているのだという神秘的。わたしたちの礼拝は口ゴスを中心に行っている。口ゴスとは真理、意味、言葉など様々な訳があるが、そこで使われる言葉は聖書から取られている。だからこそ変えるべきではないと



理解できる。また、言葉のみならず、所作や祭服などミサに関わる全てのことが聖書に根拠を置いていると丁寧に説明された。祭服は飾りではなくキリストの受難の象りであることなど、参加者の多くが目から鱗が落ちることを実感したと言っていた。

(南山教会 新内飛鳥)

「のとサポートセンター運営委員会」 発足までの経緯

今年1月1日に発生した能登半島地震による現地の被災以降、名古屋教区では「のとサポートセンター」を立ち上げ、カトリック中央協議会の災害対応支援チーム（ER ST）からの2期6か月

にわたる派遣を受けて活動してきたが、7月末に派遣が終了し、その後、よりいっそう教区主体での支援をするために新体制で「運営委員会」を設置し、「誰ひとり、置き去りにしないように」と

いう教区の支援方針に基づき、新たな復興支援を開始した。9月に発生した豪雨による甚大な被害を受けた輪島での住民への生活用水配布支援を続けながら、10月1日、2日には松浦信昭司教の被

災地視察と併せて、「第6回評価会議」と「第1回運営委員会会議」を開催した。

今後、新体制での活動としては、全国より教区に約2億円の寄付があり、うち2千万円を被災者生活復興支援に役立て、信徒だけでなく、教会隣接の幼稚園職員も含む支援をする。残りを、小松教会司祭館の解体新

築、鐘楼撤去、輪島教会の新築に充てる。七尾教会はベースとして使っているもので、将来的に解体し再建する予定である。こうした教会再建は教区として行うが、カリタスのとサポートセンターはあくまでも被災者全体への支援を行うことになる。

「能登半島地震災害復興支援 第1回名古屋教区運営会議」 発足についての報告

名古屋教区社会委員会 橋本裕明

今回、10月1、2日に、「カリタスのとサポートセンター」の企画で、能登半島地震災害後の現状視察と慰霊が行われ、また復興支援のための第1回教区運営会議が開催された。

1日目は、参加者全員で洪水被害後の輪島を訪れた。「のと里山海道」は4月段階では地震で復

路が多くの箇所で崩壊していたが、今回は酷暑中の工事作業のおかげで修復されており、対向車も問題なく走っていた。輪島では以前と比べて道路などは整地が進んでいたが、未だ地震被害を受けた多くの建物が半壊のまま残されており、公費解体が依然として進んでいない様子であった。また

水害後の泥が乾いて空気に漂い、マスクなしでは生活できないことを知った。参加者は輪島教会を訪れたあと、分かれて「生活用水の配布」を手伝ったが、やはりポリタンクの水は重く、力ある若者の参加が必要であると思った。帰路には七尾教会を訪れ、幼稚園児と一緒に「ついでにの祈り」



を行った。輪島教会付属幼稚園の園長さんの「神様、地震でもう十分なのに、またこの試練ですか」という言葉には、能登の被災者の方々の絶望的な思いが反映されていた。

翌日の2日は、松浦司教の提案により、「カリタスのとサポートセンター」の10月からの体制変更（名古屋教区主体で運営）が提案され、決定された（もちろん、ER ST（緊急対応支援チーム）、カリタスジャパンからの支援協力は継続）。今後は「教区の責任者

有識者などのメンバー」に運営が移る。現在スタッフとしては、名古屋司教（運営委員長）、宣教司（運営委員）、宣教司牧評議会事務局、社会福音化推進部、社会委員会が決定している。今後は、現地スタッフと密接に連絡をとり合って実効性のある支援活動を展開するために、教区宣教司牧評議会内に「サポートセンター」と関連する一団体を立ち上げ、教区の全面的なバックアップを図る必要があると考えられる。

サダナ ～神への道～

聖イグナチオの霊性を基に、「心と知性の静けさ」「神様との個人的な触れ合い」を体験します。

〈2024年度の予定〉

■サダナ2（入門ABCまたはサダナ1経験者のみ）

4日間すべて参加可能な方のみ。部分参加は不可。

2025年1月25日(土)・26日(日)・2月1日(土)・2日(日)

場所 聖霊会 八事修道院 ミッションセンター
名古屋市昭和区八事本町1番地（駐車可）

指導 植栗彌神父（イエズス会）

問合せ 梶上 暁子 メール ngosdn@gmail.com

☎050-7108-7410

参加者喜びの声 右QRコードよりご覧ください。



浦田カズ代 展

—旅路に希望の光を—

聖書物語、母子像、イメージ風景などを描き続ける
Sr. 浦田の世界

期間 12月4日(水)～9日(月)

時間 11時～18時（最終日 16時）

場所 ギャラリー くさ笛

名古屋市中区栄3-27-22

kuze bldg. 3F ☎052-262-2335

交通 地下鉄名城線 矢場町5番出口より徒歩5分

地下鉄東山線 栄S7a 出口より徒歩5分

*賛助出品として、口で描く岡部彩の作品も展示

後援 カリタスジャパン

宣教地召命促進の日・献金

12月の第1日曜日

「宣教地召命促進の日」を呼びかける教皇庁使徒聖ペトロ事業の目的は、すべてのキリスト者が宣教地の地元の司祭と神学生、男女修道者と志願者を育てる必要性を意識し、物的援助だけでなく、祈りと信仰生活による支援を促進していくことです。この日、わたしたちはとくに祈りと犠牲によって、「収穫のために働き手を送ってくださるよう、収穫の主」に願います。当日の献金はローマ教皇庁・福音宣教省に集められ、全世界の宣教地の司祭育成、男女修道者の養成のために用いられます。

〈カルメル修道会日比野修道院、講座、黙想企画〉

【旧約聖書から学ぶキリスト教霊性】

—キリストの十字架の恵みをより味わうために—

日時 2024年11月16日(土) 14:30～16:30

テーマ サムエル記の全体構造とメッセージ①

持ち物 必ず聖書（旧約+新約）をご持参ください。

場所 カルメル会日比野修道院（日比野教会）、参加費無料
どなたでもご自由にご参加ください。

担当 志村武神父（カルメル修道会）

問合せ 日比野修道院（052-671-1003）

以降の予定 12月21日(土)、1月18日(土)、2月15日(土)、
3月15日(土)

【静修の集い】

日時 2024年12月14日(土) 10:00～15:00

講話担当 志村武神父（カルメル修道会）

テーマ

十字架の聖ヨハネの詩「暗夜」とアブラハムの信仰の深まり

スケジュール

講話①、ご聖体顕示、昼食、講話②、ミサ、茶話会

参加費 無料（自由献金をお願い致します）
どなたでもご自由にご参加ください。

持ち物 昼食（各自持参）

問合せ 日比野修道院（052-671-1003）

新成人と共に祝う「教区新年の集い」の 日程変更のお知らせ

名古屋教区事務局長 平田政信

教区年間行事予定表では「新成人と共に祝う教区新年の集い」は2025年1月19日（日）に実施予定とされていましたが、司教団主催の「全国教区司祭養成研修会」が2025年1月14日～28日の日程でフィリピン（ミンダナオ）で実施されることとなり、担当する松浦信昭司教も参加するために、その間、不在になります。そこで教区の「新成人と共に祝う『教区新年の集い』」を下記のように変更することとしました。宜しくご理解下さいますようお願い致します。

記

2024年度 新成人と共に祝う「教区新年の集い」

日時 2025年1月12日(日) 14:00～16:30

場所 布池教会大聖堂並びに地下ホール

ネットワークミーティング イン名古屋2024



集合写真

9月21、22日の2日間、聖霊ミッシェンセンターでネットワークミーティングイン名古屋2024(以下NWIM)というイベントを開催した。NWIMとは、年2階開催される全国の青年が集まって各地のカトリックの青年活動について情報交換をすることにも、テーマを基に分ち合ったり折ったりするイベントである。全国各地で持ち回りし、名古屋教区が担当するのは4年ぶりである。開催地が名古屋市内になるのは初のことで、名古屋教区青年委員会のメンバーが中心となり、初参加のスタッフを含めて18名で実行委員会を立ち上げ主催した。全国から約70名の青年が集まり、熱く盛り上がった。今回のNWIMは「どうするイエス」として、人生の選択に迫られてい



閉会ミサ



夕食



夕の折り

るときにイエス様であればどのように考えて行動するだろうかということの聞き分け、分かち合った。特に、今年1月には名古屋教区内の能登半島で大きな震災があり、今もなお被災地で苦しんでいる方や、そのサポートに尽力しているボランティアの方々がいる。そこで、カリタスのもとサポートセンターの長井さんを招いて、現地の様子やそこでサポートの難しさの話を聞いた。参加者からは「知らなかった」「自分ならどんな方法でサポートができるかな」などと、驚きとともに被災地への関心を高めていくような姿が見られた。

青年世代の信徒として、キリストのように考えて行動しようとする気持ちを新たにしたい。夜には交流会を行い、久しぶりの再会を喜んで、新たな出会いに乾杯したりとあちこちで話題の花が咲き乱れた。今回のNWIMでは、過去にNWIMでスタッフを

していたOB・OGにも手伝ってもらい、また名古屋教区内のいくつかの教会を回って各地の信徒にも応援も頼んだ。これからも皆さんの力を借りながら、青年活動を盛り上げていきたいと思う。(名古屋教区青年委員会 松浦友助)

約250名の出席があり、厳かなミサとなり全員が一体感を共有できる素晴らしいミサであった。ミサ後、場所をホールに移し、昼食を取りながらの参加者全員との交流会は和やかな時間となり、この大切さを再認識した。



講演する藤野さん

チャリティコンサートを終えて

この夏に、高蔵寺教会でチャリティコンサートを行った方から、その様子の報告が届いていますので、紹介する。

「この夏に、高蔵寺教会でチャリティコンサートを行った方から、その様子の報告が届いていますので、紹介する。」

リズムを取り、踊り、信者、未信者の枠を超え、2、3人集まる中に私もある」のみことばが実現した。この中には、近隣住民、小学生、中学生、女子高校生も参加。知的ハウンディを持つ女性が、一曲終わるたびに「うまいやん」と感嘆。彼女の一言は、みんなを代弁していた。参加者全員、笑顔だった。まるで昔から知っている仲間のようなアツとホムな雰囲気。神の国は平和の中に実現される。

35円はエスナック教育里親グループを通して、政府からまったく支援が無く、困窮状況のファミリーマート教会に送金した。私は2008年にエスナック教育里親グループと出会った。エスナックは1979年、藤田綾子修道女により創立され、1万人以上の里子が大人になった。インド、バン

名古屋教区障害者のつどいが、カトリック名古屋教区障害者連絡会(以下、カ障連名古屋)、カリタス福祉委員会、及び濃尾ブロックの共催でカトリック一宮教会で9月8日行われた。残暑厳しい中での開催であったが、カ障連名古屋から約40名と、一宮教会、濃尾ブロックから40名の参加があった。始めにカ障連名古屋の長富永蔵さんが開会宣言を述べて始まった。ミサは松浦信司司牧長、志村武司神父(カ障連名古屋担当司祭)、太田実神父(一宮教会主任司祭)の共同司式で、ミサの中で松浦司祭は時折、手話でミサを捧げられた。ミサの参加者は一宮教会の信者を含めて

多様性、地域に開かれた教会：この言葉を私なりに考えた。「ごちゃまぜ。子どもも大人も障害のある人も外国人もホームレスも誰でも来られるアットホームな場所」。



8月24日、高蔵寺教会聖堂で、バンゲラテシユ童巻被害支援のチャリティコンサートが開催されたのは、1人の司祭か

ら届いたEメールがきっかけだった。「祈ってほしい」と書かれたメールに「祈っています」と返信したが、口だけで何もしていない自分が情けなかった。司会、音楽の才

全員、笑顔だった。まるで昔から知っている仲間のようなアツとホムな雰囲気。神の国は平和の中に実現される。当日の義援金101,035円と個人献金15万円を合わせ、251,0

35円はエスナック教育里親グループを通して、政府からまったく支援が無く、困窮状況のファミリーマート教会に送金した。私は2008年にエスナック教育里親グループと出会った。エスナックは1979年、藤田綾子修道女により創立され、1万人以上の里子が大人になった。インド、バン

名古屋教区障害者のつどいが、カトリック名古屋教区障害者連絡会(以下、カ障連名古屋)、カリタス福祉委員会、及び濃尾ブロックの共催でカトリック一宮教会で9月8日行われた。残暑厳しい中での開催であったが、カ障連名古屋から約40名と、一宮教会、濃尾ブロックから40名の参加があった。始めにカ障連名古屋の長富永蔵さんが開会宣言を述べて始まった。ミサは松浦信司司牧長、志村武司神父(カ障連名古屋担当司祭)、太田実神父(一宮教会主任司祭)の共同司式で、ミサの中で松浦司祭は時折、手話でミサを捧げられた。ミサの参加者は一宮教会の信者を含めて

しと伝わってきた。現在84歳の藤野さんの苦難の人生と喜びの人生の話は、一言で表現できない重さを感じる話であった。講演の後に松浦司祭が、貴重な体験の話聞いた感動と、参加者を代表してお礼を述べられた。実行委員会として半年間準備を進めて来て無事開催できたことを神に感謝したい。私達には主がいつも共にいて下さる事を忘れず、誰もが集える教会の実現に向けて一歩一歩進んで行きたいと願う。(大垣教会 高橋喜一郎)

第39回 名古屋教区障害者のつどい

～誰も取り残さない、誰も排除しない教会・社会を目指して～

名古屋教区障害者のつどいが、カトリック名古屋教区障害者連絡会(以下、カ障連名古屋)、カリタス福祉委員会、及び濃尾ブロックの共催でカトリック一宮教会で9月8日行われた。残暑厳しい中での開催であったが、カ障連名古屋から約40名と、一宮教会、濃尾ブロックから40名の参加があった。始めにカ障連名古屋の長富永蔵さんが開会宣言を述べて始まった。ミサは松浦信司司牧長、志村武司神父(カ障連名古屋担当司祭)、太田実神父(一宮教会主任司祭)の共同司式で、ミサの中で松浦司祭は時折、手話でミサを捧げられた。ミサの参加者は一宮教会の信者を含めて

名古屋教区障害者のつどいが、カトリック名古屋教区障害者連絡会(以下、カ障連名古屋)、カリタス福祉委員会、及び濃尾ブロックの共催でカトリック一宮教会で9月8日行われた。残暑厳しい中での開催であったが、カ障連名古屋から約40名と、一宮教会、濃尾ブロックから40名の参加があった。始めにカ障連名古屋の長富永蔵さんが開会宣言を述べて始まった。ミサは松浦信司司牧長、志村武司神父(カ障連名古屋担当司祭)、太田実神父(一宮教会主任司祭)の共同司式で、ミサの中で松浦司祭は時折、手話でミサを捧げられた。ミサの参加者は一宮教会の信者を含めて

しと伝わってきた。現在84歳の藤野さんの苦難の人生と喜びの人生の話は、一言で表現できない重さを感じる話であった。講演の後に松浦司祭が、貴重な体験の話聞いた感動と、参加者を代表してお礼を述べられた。実行委員会として半年間準備を進めて来て無事開催できたことを神に感謝したい。私達には主がいつも共にいて下さる事を忘れず、誰もが集える教会の実現に向けて一歩一歩進んで行きたいと願う。(大垣教会 高橋喜一郎)



11月の教会暦

1日(金) 諸聖人(祭)
2日(土) 死者の日
3日(日) 祝年間の第31主日
4日(月) 聖カロロ・ポロメオ司教(記)
9日(土) ラテラン教会の献堂(祝)
10日(日) 年間第32主日
11日(月) 聖マルチノ(ツール)司教(記)
12日(火) 聖ヨサファト司教殉教者(記)
17日(日) 年間第33主日 貧しい人のための世界祈願日
聖書週間(24日まで)
21日(木) 聖マリアの奉獻(記)
22日(金) 聖セシリアおとめ殉教者(記)
24日(日) 王であるキリスト(祭)
世界青年の日
30日(土) 聖アンデレ使徒(祝)
12月の主な教会暦(主日・祭日など)
1日(日) 待降節第1主日 宣教地召命促進の日(献金)
8日(日) 待降節第2主日 無原罪の聖マリア(祭)
9日(月) 待降節第3主日
15日(日) 待降節第4主日
22日(日) 主の降誕(祭)
25日(水)

11月 教区行事予定 (* 松浦司教)

3日(日) 祝教区東八事第二墓地合同追悼ミサ / 各務原教会堅信式
4日(月) 祝殉教者委「美濃・尾張殉教者顕彰ミサ」

9日(土) 典礼委員会全体会議 / 信徒協役員会
10日(日) 城東B会議 / 三河B会議・司祭会議 / 愛岐B司祭会議
11日(月) 城北B司祭会議
12日(火) 難民移住移動者委員会 / 樹の会 / 正義と平和委「学習会」
13日(水) カリタス福祉委員会
16日(土) レジオ・マリエ「名古屋クリア」
17日(日) 城北B会議 / 城南B会議 / 日比野教会堅信式*
19日(火) 城南B司祭会議 / カトリック看護協会例会
21日(木) 顧問会 / 月集*
24日(日) 豊橋教会堅信式*
7日(土) 社会委員会(布池教会)*
10日(火) 樹の会 / 正義と平和委定例会
11日(水) カリタス福祉委員会
14日(土) 殉教者委定例会 / 典礼委員会 / コアミーティング / 信徒協役員会 / 社会委員会(金沢教会)*
17日(火) カトリック看護協会例会 / カリタスのとサポートセンター / 運営委員会*
19日(木) 顧問会*
21日(土) レジオ・マリエ「名古屋クリア」
26日(木) 名古屋教区司祭・助祭の集い / テ・デウム*
27日(金) 教区事務所仕事納め
29日(日) 通常聖年開始ミサ(布池教会)*

建設費の返済に協力を

670件 35,693,214円
目標額 40,000,000円 (9月末現在)

達成率 約89.2%

郵便振替 00810-5-50605
加入者名 カトリック名古屋教区
通信欄に「福信館建設」と必ずご記入ください。

告知板

11月の炊き出し
木7日布池、14日ひまわり・南山・樹の会、21日聖霊・南山・樹の会、28日城北橋
金1日喜望の会、8日南山、15日布池、22日恵方町、29日長浦

11月 教区行事以外の松浦司教予定

7日(木) 常任司教委員会 会議
10日(日) 日韓青年交流会
11日(月)~14日(木) 日韓司教交流会
12月 5日(木) 常任司教委員会 会議
12日(木) 司教総会

パイプオルガンと聖歌によるクリスマスのお話

日時 12月7日(土) 13:30開演 13:00開場
場所 カトリック南山教会 昭和区南山町1
プログラム クリスマス聖歌(荒野のはてに まきびととひつじを 他)
ソプラノ独唱(アヴェ・マリア)
グレゴリオ聖歌(今日キリストはお生まれになった)
パオプオルガン演奏(バッハ「目覚めよと呼ぶ声あり」他)
出演者 聖書朗読 Sr.村上多美代(聖霊会)
ソプラノ独唱 Sr.伊藤晶(聖霊会)
パイプオルガン 吉田文
グレゴリオ聖歌を歌う会
アクセス 地下鉄鶴舞線いりなか駅下車 杖中交差点を南へ徒歩5分
入場料 無料(運営費用、及びホスピス聖霊講演会への寄付のご協力をお願い致します)
問合せ 二宮音楽事務所 ☎052-505-0150

映画【チョコレートな人々】上映会のご案内

日時 2024年11月9日(土) 13:30~15:30 (開場 13:00~)
会場 聖霊病院 2階 聖霊ホール 対象 一般
定員数 100名(先着順) 参加費 無料
申込締切 11月8日(金)
*映画のあらすじ:「久遠チョコレート」は、一人の男性が2003年パン屋を開店したが経営は多難な状況。ショコラティエの野口和男氏と出会い転機へ、福祉施設などと連携し障がい者雇用と適正な賃金にこだわったチョコレート工場は…。
申し込み・問い合わせ先
JCNA 名古屋支部 鈴木光恵 メール:jcna.nagoya@gmail.com
または
社会福祉法人 聖霊会 カトリック社会事業室 村木 ☎052-832-1181 (内線7354)
主催 カトリック看護協会(JCNA)名古屋支部

正義と平和委員会「学習会」のお知らせ

日時 2024年11月12日(火) 10時30分~12時
場所 福信館2階
テーマ 「野宿生活者の方から考える」
講演者 高木栄子さん(笹島キリスト教連絡会、聖公会ステパノ教会会員)
どなたでも参加できます。

オルガンとクリスマスキャロルとグレゴリオ聖歌によるクリスマスコンサート

日時 12月21日(土) (二回公演)
一回目13:30開演(13:00会場)
二回目17:00開演(18:30会場)
場所 オリナス一宮 名鉄一宮/JR尾張一宮駅東口より徒歩5分
プログラム クリスマスキャロル(荒野のはてに、まきびととひつじを他)
ソプラノ独唱(アヴェ・マリア)
グレゴリオ聖歌(今日キリストはお生まれになった)
パイプオルガン作品(バッハ「目覚めよと呼ぶ声あり」他)
演奏者 吉田文 オルガン(オランダ・ヨハネス社製チャーチオルガン使用)
伊藤晶 独唱
名古屋グレゴリオ聖歌を歌う会
入場料 2,000円 全席自由
主催 名古屋オルガンの秋実行委員会
問合せ 二宮音楽事務所 ☎052-505-0150

名古屋教区カリタス福祉委員会主催 第3回 大切な家族・友人のためにささげる追悼ミサ

日時 2024年11月16日(土)
10:00 祈り、黙祷
10:20 ミサ(自由献金) ミサ後分かち合い
12:00 終了予定
場所 カトリック瀬戸教会 瀬戸市苗場町66
司式 教区カリタス福祉委員会委員長 山野聖嗣神父 O.S.A
瀬戸教会主任 スワイアテック・ニコラス神父 O.F.M.Conv
その他 どなたでも参加できます 遺影台を用意いたします
平服でお越しください
連絡先 名古屋教区カリタス福祉委員会
☎052-852-1426 FAX 052-841-2225

11月に死者の月を迎えます。私たちは、特に自ら命を絶った家族や友人を思い出し、故人を記憶の中に閉じ込めてしまおうことがないようにと祈ります。すべての人を永遠のいのちへと招いてくださる神は、私たちが愛を育てるようにと忍耐強く待ってられます。祈りは愛です。